

支援カード エビデンス版 ― 先生用④（使う場の一覧）

大原則：カードは「配って終わり」では効きません。効果が確認された研究はどれも、カードを教える手続きの一部として使っています（教師がモデル→いっしょに→本人だけ／記録→称賛とセット）。合言葉は本人が動作の直前に声に出す台本です。この情報は先生用シートだけに載せ、子どもに見せる掲示版・ミニ版には書きません。

カード	あいことば	使う場（これがないと効かない）	根拠
● F01 わり算の ひっ算 カード	たてる・かける・ひく・おろす	筆算の導入期に、先生が合言葉を声に出しながら板書→子どもも唱えながら解く。合言葉は動作の直前に声に出す台本。	課題分析＋自己教示（NCAEP確立EBP）
● F02 見なおしの カード	きかれた ことに こたえている？	「見直しなさい」と言うだけにしない。最初は先生と1問だけいっしょに見直す→本人だけへ。テスト前に全員で手順を唱えてから配る。	課題分析・チェックリスト＋自己管理
● F03 わけの 見つけ方 カード	なんで そう 思った？	D04（考えをまとめるカード）の前段。先生が「なんでそう思った？」を口ぐせにして問い、だんだん子どもが自分に問えるように移す。	自己質問・推論生成（読解方略メタ分析）
● F04 しつもの ことば カード	はてな？を みつけよう！	掲示して、発表や話し合いの質問タイムで「この中から1つ選んで質問してみよう」から始める。出た質問はすぐ認めて広げる。	質問生成・自己質問（読解方略指導）
● F05 絵と 図の かき方 カード	○と テープで かける	A15・A16の「こまったら」の受け皿。先生が同じ型の図をかくて見せる→なぞらせる→自分で。図の型はテープ1種類から始める。	スキーマ図（テープ図）指導（Jitendra/Fuchs）
● F06 学習で つかう ことば	まよったら ここにもどる	学期はじめに全員で1つずつ意味を確認してから掲示する。指示のたびに「『くらべる』って何をすることだった？」と一覧にもどる。	視覚支援（ことばの見える化・NCAEP確立EBP）
● F07 かん字の おぼえ方 カード	分けて・となえて・くらべる	唱え方は本人が言いやすいことばでよい。間違った字のまま反復させない（間違いが定着する）。マスの大きさは本人に選ばせる。	部品分解＋音声化による記憶支援
● F08 かぞえ方の さくせん カード	ゆびの かわりに ○を かく	指をかくして数える子に、「○をかいていい」と学級全体に宣言する（その子だけの方法にしない）。おはじき→○→数字の順で少しずつ手放す。	半具体物（○・図）による数の操作支援
● F09 大きい 数の よみ方 カード	みぎから 4けたで くぎる	大きい数の単元・テストで。位が読めず手が止まる子に「まず右から4けたで線を引く」を最初の一手として教える。テスト前に全員で唱えてから配ると、その子だけの方法にならない。	位取りの視覚支援・方略の手順化